



2008年11月発行

NO.19

千代田まちづくり サポート

通信

編集・発行 (財) まちみらい千代田企画総務グループ

東京都千代田区神田錦町 3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階
〒101-0054 TEL.03-3233-7556 FAX.03-3233-7557

財団ホームページ <http://www.chiyoda-days.jp/>

E-mail info@mm-chiyoda.or.jp



第10回公開審査会を開催。 10団体への助成が決定！

今後のまちづくり活動に期待

平成20年6月14日(土)、千代田プラットフォームスクウェアにて、「千代田まちづくりサポート第10回公開審査会」が開催されました。申請グループや関係者、一般来場者など約100人が注目するなか、11グループの活動内容の発表と審査が行われ、10グループへの助成が決定しました。

今回は、学生主体の活動が約半数を占め、神田での野外音楽ライブ、外濠でのエコボートツアー、橋の景観を再発見するウォーキングなど、若者のパワーを活かした様々な活動内容が発表されました。また、障害者との共生をテーマにしたまちづくりや、農業をテーマに江戸の文化と現在のまちの魅力を再認識する活動など、これまでにない切り口の活動も登場しました。発表に続く質疑応答では、発表者それぞれが、審査委員の鋭い質問にも怯むことなく、活動に対する熱い思いを語り、大きな拍手を受けていました。

休憩時間では、発表を終えた団体が互いの連絡先を交換したり、新しいアイデアを出し合ったりする場面も見られ、会場は千代田のまちづくりを担う志を持った人々のネットワークづくりの場としても盛り上がりました。

助成団体の活動内容について、中間発表会を11月15日(土)午前、活動成果発表会を来年3月に開催する予定です(詳細は当財団ホームページでお知らせします)。入場は自由ですので、それぞれのまちづくり活動に注目してください。

千代田まちづくりサポートは今年で10周年を迎えます。これを記念して10周年事業を平成20年11月15日(土)午後開催します。

【審査委員=敬称略】

会長 鈴木伸治

(横浜市立大学国際総合科学部准教授)

副会長 早田 宰

(早稲田大学社会科学総合学院教授)

委員 田熊清徳

(神田芸芸祭実行委員長)

服部素子

(社団法人日本フィランソロビー協会)

谷真理子

(千代田区青少年委員)

中嶋利隆

(大手町・丸の内・有楽町地区再開発
計画推進協議会事務局長)

山崎芳明

(千代田区政策経営部長)

目次

【第10回助成申請グループ(発表順)】
(一般部門)

[3回目]

● 神保町応援隊 2

[2回目]

● C-bridge 2

● SOTOBORI CANAL WONDER 3

● NPO 法人地図文化研究会 3

● 食育。街行く研究会 4

● 神田フェーダー・ニュートラル 4

● helpus! (ヘルパス) 5

[1回目]

● NPO 法人ちきゅう市民クラブ 5

● 翹友会 6

● NPO 法人 WEL'S 新木場 6

(トライアル部門)

● 日本の農業に一生を賭ける!
学生委員会 (SOLA) 7

【第9回助成団体の活動成果発表】

● 千代田文化会 (一般部門 3回目) 7

【総評・審査委員講評】

8

【まちみらい千代田 賛助会員のご紹介】 12



2 年間、商店街や住民のみなさん、サポート事業で出会った方々や地域の各大学の学生さん、応援隊の仲間と少しずつネットワークを育んできた。

これからも、この地域の特色ある活動として神保町独特の応援隊の活動を続ける。活動の中で思ったのは、神保町のために何か役に立ちたい、関わりたいと思っている人たちの大きな基盤になっていること。「本と街の案内所」は学生からお年寄りまで、みんなが集まるコミュニケーションの場として大事な役割を果たしている。

神保町は観光と文化の地域、3年目の私たちのゴールは、「神保町サミット」。すべての枠を超えて、神保町が好きで活動している人の参加で、神保町の活性化のために何ができるか考えていく取り組み

1 よそ者と若者、町会と商店街。知恵と力を合わせて神保町を元気ある町に！！

〔神保町応援隊 3 回目〕

み。この実現に向けて、また1つひとつ積み上げていきたい。

3年目からの活動は、まず柱となる事業を3本考えている。1つ目は、「神保町ガイド・ツアー」の事業化。タウン誌「おさんぽ神保町」は4万部発行しているが、今後も続けていく。2つ目はボランティア・センターとしての関わり、3つ目は注目の神保町3丁目の成果を中心に、活動を未来にどうつないで自立したものにしていくか。

Q 3年目は新たに「神保町サミット」を開催するとのこと、そのイメージをもう少し話してほしい。

A 神保町が好きで活動している人たちは、町会、商店街、組合、と目標は同じなのだが、ばらばらにやっている。今回からトップ同士が手をつないで、チラシを作ったりして協力できた。さくら祭りで靖国通り商店街を応援。お祭りも一緒にやれば、より盛り上がるのが分かった。

Q 去年は区長にも会い、大変な要求もした。通りの名前を付ける、桜並木の存

続など、実現は？

A 神保町3丁目では名前を募集中。

Q 町会、商店街を巻き込んで活動しているので、目指すはエリア・マネジメント。神保町サミットも成功させてください。トップダウンではなく市民活動からの組織作りを実現してほしい。

A 神保町らしさがなくては意味がないのでそれを出してやっていく。

Q 会費500円で、会員の拡大のためにも活動資金をどう集めていくのか？

A 商工会議所の神保町活性化プロジェクトの一環に神保町ガイド・ツアーと読み聞かせの会を申請中。タウン誌はより充実したいと千代田観光協会の協力を得て英語、韓国語、中国語のガイドブックも検討。インターネット・ラジオ「おさんぽラジオ」はFMラジオ番組制作の事業を考えている。

Q 会費収入は事業費全体の何パーセントを占めるのか？

A 会費収入は年に20万円くらいで、活動資金の安定のために企業会員を増やしたいと考えている。

2 橋を視点として考える千代田の観光まちづくり

〔C-bridge 2 回目〕

これまで釣りに釣る船による橋めぐり、まちめぐりを2回実施。第1回千代田ブリッジクリーニングで橋周辺の清掃活動をした。神田川のブリッジ・ウォークは解説がつくので橋の歴史や構造を知り、魅力の再発見効果があった。

これらの活動はCAPPSや、「勝鬃橋をあげる会」などの団体と共に行った。船でめぐる橋めぐりでは参加者に橋の上からの眺めや地上からの展望の他に、橋の下からという異なる視点から見ることにより橋の構造や仕組みなど、より細かな部分にも関心が集まった。参加した区民に橋めぐりの体験で、橋の再発見や親しみが高まった。

これまで外濠や神田川などの河川を中心に活動したので、2年目は皇居を中心とした内濠を対象にする。橋を活かした観光まちづくりなどの具体的な提案をしていく。橋めぐりのブリッジ・ウォークなどが有効なまちづくりの方法だと証明されたので、観光への実態把握や具体的な提案と活用方法を市民と共に意見交換しながら考えていきたい。

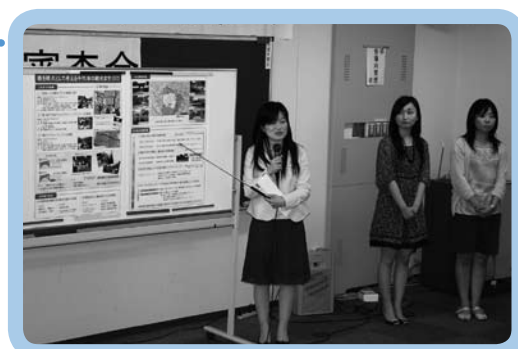
対象地域は内濠周辺の主に橋を中心に。具体的な活動計画は、まず内濠にかかる橋の特徴を歴史や構造、素材、などを調べ、その魅力についてブリッジ・ウォークでのアンケートなどを通して検討する。それは学生ボランティアに頼む予定。

今回は観光利用の実態と観光客の意識調査をする。皇居周辺は特に外国人観光客も多いので目的などを訪ねたりしてデータを集める。次に区民を対象とした内濠ウォークなどを実施したい。パネルディスカッションもして区の観光ルートについて考えていきたい。

Q カレッジ・ファッションなどのイベントをやる費用は？ 調査費が多いがパネルディスカッションの費用は？

A 会場費は考えているが、講師はボランティア仲間をお願いする。調査費というのは資料代と学生ボランティアへの交通費。

Q 地元の人が橋に愛着をもたないと観光資源としても半減する。企業にも協力を求めているのか。



A 地元の人たちと意見交換の場があれば、ぜひ声をかけていきたい。

Q 橋の違いによって「まちづくり戦略も大いに違ってしかるべき」とあるが、どういう意味か？

A 橋の形状により橋の役割も違う。その違いに応じた活動を考えていく。

Q 去年は釣りに釣る船が活躍したが、今年度は内濠では無理なのか？

A 内濠も船で巡れるといいのだが、まったく許可が下りない。

Q アンケートの質問項目は何か？

A 見どころについてや、何分くらいで歩けるか、年齢、性別、目的など。それをディスカッションに活かしたい。



3

歴史遺産外濠を伝え、活用する。

〔SOTOBORI CANAL WONDER 2回目〕

での外濠レクチャーを行うクルージングを月に1回定期的を実施する。多くの人に緑も多い外濠の四季を感じてもらいたいと思っている。

これまでは外濠を「まちづかい」という観点で活動してきた。2年目は外濠周辺の「まちづくり」という観点で活動。具体的には周辺地域の歴史やお店の情報を盛り込んだ「外濠マップ」を作成する。

活動を続けるには企業も含めた周辺地域の理解が必要だ。外濠を中心に周辺の街を盛り上げていきたい。

Q 子どもに積極的に働きかけるといいますが、どのようにするのか？

A 児童館や小学校の土曜日の活動に声をかけていきたい。

Q 昨年は、子どもの参加はどうだったのか？ 声はかけたのか？

A 声はかけたが、小学校の運動会と重

なり、実現できなかった。今年はぜひ実現したいと考えている。

Q キーパーソンになる人を探して、協力してもらってはどうか。

A ぜひ、ご紹介いただきたい。

Q 船に乗るのは低学年では無理かなと思うがどうか。また、雨の日はどうするのか？

A ボートに乗る時はライフジャケットを着るし、必ず経験者の大人が付くので心配はない。雨の時は中止。

Q 親子でやるようにしては？ 交流する目的もあるが、保護者の責任において参加してもらう。

A 昨年もやったが、今年も親子割引をしてやっていきたい。単に責任の問題ではなく、共に楽しんで体験してもらうために。

去

年は千代田の歴史遺産外濠の江戸時代以来の歴史を伝える活動をして、東京における水辺空間としての魅力を示した。その1年間の活動をまとめた冊子も制作。イベントとしては舞台上に設け、水上から見るダンス・ジャズコンサートも開いた。「日本橋川・神田川に清流をよみがえらせる会」と共に外濠の水質浄化活動も行った。

今年も外濠ワークショップ「外濠にEM菌団子を投入する」を行い、水質浄化にも努める。Eボートを利用して水上

4

地図を活用した魅力ある“まち”千代田の実現

〔NPO 法人地図文化研究会 2回目〕

地

図を活用して千代田のまちづくりに貢献しようと活動し、2年目を迎えた。地図は古来より人間にとって重要なもので文化、歴史社会活動を継承するには必ず必要。最近、地図を読めない人が増えている。

欧米では、地図をマップとチャートの2つに分けている。航海に使う海図、航空図などはチャートで、これは読み取るもの。千代田区にもいろんな情報を載せた地図がある。消防でも、警察でもいろんな地図を出している。

逆の形の地図があってもいいのではないか。つまり市民が自分たちの力で未来の千代田を考えて情報を集め書き込んだ地図。そこで一般市民と共に、住みよい魅力的な地域に役に立つ地図を共同企画して試作してきた。それが千代田の自転車マップ（歴史と文化の散歩道～駿河台コース）。

環境にも、観光にも役に立ち、住民や区内で働く人たちのニーズを集めて、基盤整備など行政にも働きかける地図を作る。町の再発見やまちおこしを目的に、自転車を活用した千代田の新しい楽しみ方を提案した。

さらに実際にそのコースを自転車で回って、試行錯誤しながら完成させた。今年度も引き続きこの作業を継続したい。エリアを変えて作ったり、道路交通

法が改正されたので、それに応じたマナー、ルールの情報を入れたい。私どものマップミュージアムで学んでもらい、モニタリングしながら、市民参加、提案型の未来地図の試作に取り組むつもりだ。

Q 地図博物館はすばらしい所なので、地域密着型ならば、もっと小川町の

商店会や町会にも働きかけ、マップの制作もモニタリングだけでなく、その活用方法を検討してはどうか。自転車マップでも歩道を通行可なのかとか、新しい交通ルールもきめ細かく、切り口鋭く、観光でも歴史的文化的な情報もプロの技として入れてほしい。

A 初めての経験で昨年からの課題だと思う。今年はぜひ期待に添いたい。

Q 昨年のよくできた地図をみると、作る楽しみがあると思う。市民や学生と共に作る楽しみをもっと企画し、活動に取り入れてはどうか？

A 作る過程もベースは専門家だが、実際の項目や細部はモニタリングを通して区民と共に情報を集約し、作り上げたものだ。

Q 壮大な計画だが、テーマに飛躍も感じる。もう少ししぼっては？ 地図を読むとか作る楽しみを館内でイベントとして増やしてはどうか？

A やってはいるが、なかなか人が集ま



らない。そこで自分たちが外へ飛び出した。地図を作って終わるのではなく、そこから町のために何かを提案して実現したい。

Q 市民の地図作りの可能性は広がっている。電子地図もある中で、市民活動とどうリンクするのか？

A 地図を作ることが目的ではなく、地図を通じて提案をすること。その過程でまちづくりに参加できる。自転車マップを作ることで何かに気づき、行政に提案できる。

Q 私も障害者の方のための地図を作ったが、いっしょに街歩きをしてみると問題点が見えてくる。試作の地図を持って障害者の方が歩いてみると、お店の人と話すことでコミュニケーションが生まれる。作るプロセスで人とのつながりができ、触れ合えることを大事に考えていってほしい。必ずしも政策を提案することだけが、まちづくり活動ではないと思う。



5 食を中心とした街の魅力の再発見

〔食育。街行く研究会 2回目〕

昨年まで、千代田区の食育推進委員として行政の食育ガイドマップを作り、食の大切さを報告書として提出した。それで終わらせたくなくて、サポート事業に応募し、活動してきた。

食の魅力を使って、街を活性化しようという試み。地域と、食と、店、この3つをねらっていかないと、街の活性化は実現しない。地域の食のブランド、松阪牛とか讃岐うどんなどのように地域ブランドが大勢の観光客を呼び、その土地を活性化している。

今回は、小川町、錦町、神保町など区切った地域での活動。2003年に「神田を歩こう」という本を神田連合町会が

作ったが当時の店はほとんど閉まっている。それだけ神田は動きが激しいわけで、キーワードとなるのは親子3代続いているような老舗ではないか。街で50年以上続いている店を取り上げていかないとだめだと思った。

しかし、お店側にも取材をされたメリットがないとだめ。神田で日曜日に店を開いてもお客が来ないので閉めてしまう。ならば、神田の店で神田食大学を開いて、街の顔である店主が講師を務める。それが軌道に乗れば日曜日にもお店を開いて、活性化できる。

そこで2年目は神田の町会単位の神田老舗本を作る。まずは小川町、錦町編の出版。2番目に地域食として、「江戸っ子の食・神田」といった切り口で情報をマップとして提供する。更に、地域ブランドを考えるイベント、食の祭典、神田食ネットワークを実施する。

町会や商店会の枠を超えて行うので、ぜひ、サポートをお願いしたい。

Q 町会の縛りはなしに、老舗の取材をしようということで、大変なことだ。

A そのためにも、お店にもきちんと謝礼金を払っていくシステムをつくりたい。雑誌社などではしている。

Q 食大学もいいアイデアだが、冊子を作るには、デザイン的なセンスも必要なので、よろしく。

A 申告書を自筆で書く団体が少なくなっているが、自筆で書くと情熱も決意も湧いてくるものがある。デザイン的には観光協会などの協力やアドバイスを受けてやりたい。

Q 食育については、どうなったのか？親子で学ぶ食の安全教室なども、ぜひ、やってほしい。

Q 老舗本の出版にかなりの予算をとっているが、どのくらいの部数やページ数を考えているのか？

A これまでの経験から2万部で20万円くらいで可能。それ以外にマップやパンフを作っても予算内でできると思う。ページ数は20頁弱か。

6 もっともっと輝けおっちゃんの街・音楽を通じた特色ある街づくりプロジェクト2

〔神田フェーダー・ニュートラル 2回目〕

神田駅周辺を音楽というツールを中心に「賑わいづくり」を目的とした活動。学生、商店街、町会の有志で昨年からはじめた。神田地域は一見、近隣の街に比べ魅力がないと思われがちだが、神田祭りに象徴される伝統ある町並みと人情味あふれる人たち、地域コミュニティのつながりなど、すばらしい地域資源がある。安くておいしい飲食店も多い。これらの魅力や特色を磨き、発信するための事業を企画運営する。地域のミックスされた市民による新たな視点のまちづくりを目指し、皆が愛せる町とするため、野外音楽ライブを通して活性化を図ってきた。音楽イベントを定期的に開催、発表の場を求めているアマチュア音楽家「オヤジバンド」などが演奏する仕組み作りをしている。

そのために、フリーペーパー「カンダフル」の発行やウェブサイト「ロジヨコ.jp」の情報発信を継続中。内容はイベントや音楽情報だけでなく、地域の歴史資料、商店街の店舗の特集、住民のリレーインタビューなど。情報の共有と交流をして、イベントを盛り上げ、まちづくりを牽引していく。「ロジヨコライブ in 神

田」と名付けた事業は延べ32回、主に中高年の130組のアーティストが参加。小さな野外ステージのストリート・ライブに約3500人が楽しんだ。これらは、神田駅東サイド以外でも開催された。

また、去年の課題であった地域情報発信や地元とのコラボレーションにも力を入れる。町のコーディネーター、ガイド役の方を招き、街歩き・神田ツアーを実施予定。「ロジヨコ探検隊」による新たな神田の魅力を発掘する。事業の採算性にも積極的に取り組み、精一杯頑張っていく。

Q 「探検隊」の中身は何か？

A まだ模索中だが、街歩き、食べ歩きをしながら、神田の魅力を発掘していけたらと思う。

Q ライブの場所は東口でいいのか、他にこれという提案はないか？

Q ライブのレンタル器材などに企業の宣伝など入れれば、資金となり、3年目以後、経済的に自立する1案になるのではないか。

Q フリーペーパーの作成費が予算の大半を占めるが、広告を入れれば持続可能

な活動になるのでは？

A ロジヨコ探検隊の活動を通して得た地域情報をペーパーに盛り込む。その過程でお店などつながりができれば、広告も考えていきたい。

Q 住民に「オヤジバンド」の活動は増えているのか？

A 中高年のサラリーマンが中心だったが、世代を広げていくつもりだ。

Q 親父の陰にはおばちゃんがいる。もう少し、おばちゃんも大事にしないと広がらないのではないか。

A いっしょにコラボしているが、さらにおばさん達が増えれば、すごいと思うので、ぜひ、よろしく。

Q 学生が先輩から後輩へ活動をつなぐコツがあれば、教えてほしい。

A 祭りや行事に参加することで、同じ価値観を共有し、つながりができる。それが大事で、自然に継続される。





7

神田駿河台地域および神田神保町地域と学生の連携を図る

〔helpus! ヘルパス 2回目〕

この地域の特色はいろんな学生がいて様々な活動があること。まちづくりに貢献できるのに地域と学生が共に行うのは難しい。その橋渡し役になり、地域の要望に応える目安箱的な存在になろうと活動している。

昨年度は学生と地域に声をかけ、多くのイベントに参加。特にお茶の水茗溪通り商店会と協力して、「お茶の水アートピクニック」を成功させた。調整役としてイベントの中心的役割を果たし、学生や地域の方々と交流を深めてネットワークを作ることができた。

しかし、楽しかったが疑問も感じ、何が足りなかったのか考えた。交流して、それで終わってしまった。その体験を形にしてまた地域に返していく、その循環のサイクルができてこそ自分たちの活動が広がる。そこで学生の活動内容を「できることカタログ」としてアウトプットし、これを活用できそうな企業へアピールする。

つまり学生団体のできることのアウトプットと地域のニーズをつなげる。学生にとって協賛してくれる企業はありがたいので、企業に働きかけ、オファーをとる。ネットワークを活かして応援してくれる企業を探し出し「できることカタログ」に載せ、学生に伝える。

今回は、特にこの「できることカタログ」の小冊子を作ることに力を注ぎたい。さらにイベント主催者と学生をつなぎ、地域周辺大学、専門学校や団体との連携を図り、地域との協働活動を行っていく。

Q 「できることカタログ」に載せるのは、具体的にどんなことか？

A たとえば学生が家具を造ること等。

Q メンバーは何人くらいか？

A メンバーは今のところ10人くらい。ただ、ネットワークは広いので、参加学生の数は多い。

Q 「できることカタログ」は、企業に配布するより地域のイベント主催者や団体に配る方が有効では？

Q メンバーにはいろんな大学の学生がいるのか？

A コアメンバーは日本大学が中心だ。イベント等のときは明治大学等他の大学にも声をかけ、参加してもらう。

Q 普段からいろんな大学の学生同士の交流や協働をして、「できることカタログ」にもいろんな大学や組織の活動が載るようにしてほしい。

Q 企業と学生も結び付けるのか？ サポート事業の他のグループの紹介も企業に働きかけるのか？

A できるだけやりたい。

Q 印刷物を渡すだけでなく、話し合うなど、交流の場を持つと企業との可能性も生まれるかと思うが・・・

A 今年は「お茶の水アートキャンパス推進会議」を立ち上げ、地域と学生の意志の疎通を図るので、企業ともぜひ一緒にやりたいと思っている。

Q edocationを設立し、カンダユメラボのグループと「夢祭09」をやるそうだが、今後の活動は？

A とりあえず、一緒にやることになったが、形はまだ定まっていない。

Q 独自のポリシーを持って活動しないと便利屋さんになってしまう。その点を気をつけてほしい。

Q 子どものイベントや福祉、防災、環境問題などのお手伝いもお願いできるのか？

A 学生のやりたいこととマッチングすれば可能だと思う。

一般部門 1 回目

8

多国籍居住時代・異文化理解によるこれからのまちづくり人材の養成

〔NPO 法人ちきゅう市民クラブ 1回目〕

神奈川県「ちきゅう市民かながわプラザ」国際理解展示の企画設計メンバーから生まれた組織。過去9年間アジアの留学生と日本の子どもたちとの交流、国際理解活動をしてきた。音楽家の招聘でコンサートや講演会、大使館での交流活動にも取り組んでいる。

昨年は、トライアル部門として参加。麹町幼稚園でモンゴルの、同小学校ではサウジアラビアの異文化理解ワークショップを実施。

今年はさらに充実を図り、ロシアの、一流の音楽家によるピッコロ・バイオリンのコンサートなども加える。

首都東京の中心千代田区から、まちづくりの人材を養成し、世界に発信していく活動をしていく。お集まりのみなさんとも交流し、協働したい。

Q まちづくりになるかが問題。活動の中で子どもたちが変化したり、それを母親たちと共有できるのか？

A アンケートの結果、学校側やPTA

とどう活動にするか協議していく。外国人が多く居住している社会で、子どもの頃から異文化に触れていけば、共生する市民として育ち、やがてまちづくりの人材ともなると思う。

Q 具体的には外国の音楽家を招くための予算。その意味があるのか？

A 板橋区でやった時にロシアの音楽家の演奏が好評だったので、千代田区でもやりたいと思った。

Q 学校でやるのか？ 公民館か？

A 会場はこれからの相談で決める。

Q はたしてこのサポートでやるべきことか、なぜ千代田でやるのか？

A 千代田区というのはこれからますます外国人も増え、在勤在住の人数が異文化に接する機会が多くなる。その時の一助になればと思う。

Q メンバーは千代田区在住在勤か？

A 必ずしもそうではない。

Q 5回のワークショップのうちの

1回がロシア人のコンサートなのか？

A 旅費が高いので1回は入れたい。

Q 街づくりにおける外国人の役割とは何か？

A 外国人を子どもたちに触れさせるといふより、交流によって人材の育成をするという観点から行っている。

Q そこがまちづくりと違和感がある。交流して何かやることだとわかりやすいのだが、その点が気になる。

A 貴重なご意見を参考に、その点をよく考えてやっていけると思う。





9 千代田区（麹町・半蔵門）、区外の人たちにも愛される街づくりを

〔麹友会 1回目〕

麹町・半蔵門地域は歴史も文化もあるが、人々に馴染みにくい感じがある。この地域の飲食店の情報をマップや紹介記事にしたフリーペーパーを制作した。その過程で交流した商店の方々が、大きな悩みを持っていることを知った。1つは、交通の便がいいのに、土日になるとほとんど人がいなくなること。もう1つは、ここで働く人々もまたこの地域には関心が薄く、その魅力にも気付かないし、在住の人たちとの結びつきが弱いことだ。

この問題を解決するために、まず、この地域の外からも人を呼び込むために、仕事以外の目的で訪れる人を増やす。そのためのイベントを開き、ビジネスパーソンと地域とを結びつける。イベントを

定期化することで、地域の新たなブランド（魅力）を作る。

そこで、「芸術家を志すクリエイターの卵」に発表の場として店舗を安価で提供してもらう。多くのクリエイターを募り、同時開催して街全体がギャラリーになる流れを作ることを考えた。

ビジネスマンにとってもメリットのある催しを街の人たちと協働し、また、彼らを持つ専門的な知識や経験を街に還元できるようにしたい。

以前にも、この試みは何度か行われた。店舗の中に作品を飾るのか？

中にも飾るが、店の前にも飾り、外からもアート作品が見えるようにして、街全体をギャラリーにする。

どういう作品を飾るのか？

店の内と外で、作品をテーマで分ける。店内なら花や虫をテーマにしたり、店先には千代田区に関するエコの大きなパネルとか。

それを成功させるには、街の人と連

携がとれないと絶対無理だが・・・

Q 商店街の人たちとは話し合っている。特に2代目3代目の若い人たち。

Q クリエーターの方たちとの連絡はとれているのか？

A クリエーターたちは300人くらいと話している。芸大とか専門学校などにポスターを貼ったりもする。

Q 収益の10パーセントを支援団体というがどこからの収益か？

A 展示作品1点につき千円、3点では2千円とか、展示費用をもらう。

Q 展示する商店にお金は入るのか？

A お店は、イベントによるお客が来て、店に入ることで収益を得る。

Q アートのクオリティが課題。アーティストは自分の作品を発表したいが、商店は自分の店にどんな作品がくるのか気になる。この作品に提供する店を募集とか、この店に発表したい作品を募集とかしないと難しい。

A 公募の仕方は検討して決めたい。

10 障害のある人の社会参加と地域交流ができる緑地管理とカフェの設置

〔NPO法人WEL'S新木場 1回目〕

企業就労を目指す障害のある人に、必要な支援を行っているが、まぢみらい千代田のあるこのビルの3階に事務所がある。「木場」という名称は最初に作業所を開いた地名に由来する。仕事に就きたい障害者と受け入れる体制の企業とをマッチングさせるのがメインの活動。千代田区に移って仕事量も増え、地域の方が声をかけてくれることに驚いた。当ビルの屋上で庭園を造る手伝いや、旧今川中学で開かれたイベントではコーヒーを販売したりした。接点を持つことができて勇気をもらい、とても感謝している。

何かこの地域のお役に立てないかと考えていたとき、サポート事業のお話を聞いた。今後の活動としては、イベントの時にコーヒーを出すとか、旧今川中学周辺の清掃や、学生グループのSOLAさんたちと地域の緑地管理のノウハウを蓄積していく。今年度はその仕組み作りになると思う。

それができたら、雇用を求める企業に取り組みを提案し、就労希望の障害者を紹介していく。カフェテラスの運営なども通じて、地域との交流と就労に必要な

ことを学ぶ機会を提供する。よろしくお願ひしたい。

Q 決まった場所で活動するのではなく、その時々で場所で行うのか？

A 手始めにはこのビルの屋上をお借りし準備する。基本的にはイベントから行うが、いずれ出店したい。

Q 実際に障害のある方々が働かれる場所は、変わる可能性があるのか？ 場所が変わっても大丈夫か？

A 職員は付き添って行き、不安を取り除く声かけなどフォローする。カフェの中で、適性を見たり、社会に出ていく就労前訓練の場としたい。

Q とても意義のある活動だが、まぢみらいにどう活かせるのか？

A 最近は、企業から雇用の希望が多い。問題は本社が区内にある企業だが、仕事内容が事務が中心なので、雇用したいが仕事内容が決まらないこと。社内カフェや周辺緑化などが実現すると、よいサンプルになる。清掃活動や緑化できれいなまぢみらいに貢献したい。

Q 公園の清掃、緑化などはニーズも高いが、実際にそれに応じられるか？

A 模索中だが、まずは旧今川中学周辺



から始めて実証し、その中で地域のニーズを探り、対応していける。

Q その旧今川中周辺の清掃、緑化を地域貢献の活動とするのか？

A まずはそう考えている。実際にやっている地域の方と一緒に、お手伝いから始めて、教わりながら関わっていきたいと思う。

Q 経費の件だが、たとえばイベントで出張カフェをするならそのコーヒー代、緑地の造園なら苗の代金、ボランティア経費などの項目があってもいいのでは？ 運営費からでるのか？

A 苗は以前のイベントで農業の研究をする団体から提供されたという情報があったので、確保できるかと思う。また、屋上庭園を管理されている業者と一緒に活動したので、その方から緑地管理の経費などは伺い、これからもっと詰めていきたい。



11 江戸風の食農イベント ー江戸風土システムー

〔日本の農業に一生を賭ける！学生委員会（略称 SOLA そら）
トライアル部門〕

東 大、日大、農大、家政大の食や農に関心を持つ学生が自分の専門分野を活かして関わってきた。「農業に若者を巻き込む」と「理想のフードシステムの探究」が目標である。

これまで出版物（農業入門書）の企画や農業体験のワークショップを行った。活動のテーマに「つなげる農業」という言葉がある。農業を通じていろんなことをつなげ、日本の農業を再建したいという意味。その中に「まちづくり」という要素もあり、ものをつなげていくことがまちづくりでも重要だと認識している。

温暖化対策条例を全国に先駆けて施行し、環境問題に取り組むこの千代田区でこそ、土と緑で人がつながるまちづくりをしたいと考え、サポート事業トライアル部門へ応募した。子どもが楽しく、大人が学べる食農イベントをできれば地元のお祭りに併せ、生産（農）と消費（食）を一連の流れとして体験できるように開催したい。

まず、「江戸風土システム」について

説明する。旧今川中学校の畑と調理室を使い、子どもたちに実際に畑に作付けを体験してもらい、作物の調理も行う。一連の流れに楽しい食と農の実感を持ち、それを通じて問題点も見つけ出し、考えていくという活動。地元の商店会の方々と一緒に理解と関心を深め、江戸の歴史と文化を組み込みながら、江戸野菜や子どもの好きな野菜の栽培をする。

6月8日に開催された神田縁起市には、地元の大人や子ども100名ほどが参加。具体的には、畑を作って種や苗を植え、事前に収穫した野菜で団子（江戸野菜のスイーツ）を作って食べるというイベント。地元の2つの企業の協力や区の姉妹都市である長岡市の農家から苗が提供された。

当日の参加者の子どもからの声は、土いじりは楽しかったとか、土はこんなに柔らかいと素直な気持ちが表現された。年配の方の感想としては、久しぶりのなつかしい体験であったと語ってくれた。また、実際に長岡市の農業体験者の方の指導、アドバイスが聞けたことは、このような形での地方とのつながりも実感できた。

今後の活動は、こうした取り組みを街に根付かせていくことで、土と緑で人が

つながる街にしていきたい。

Q 地元と SOLA と長岡市との関係はどんなふうにつながったのか？

A 地元の青年部の方からお話をいただき、長岡市と千代田区の関係も教えてもらった。この活動により、千代田区と長岡市の距離が一層縮まればと思う。また、産地と消費地の距離を縮めることにもなる。

Q すばらしい活動だと思うが、野菜としては、大根、蓮根、牛蒡などずいぶんいろいろあるが？

A 江戸野菜と長岡市からの野菜、山芋、南瓜など子どもたちからヒヤリングして、好きなものを栽培する。

Q 江戸の歴史と文化を織り込むとは具体的にどういうことか？江戸時代は完全に地産地消。多町青物市場については詳しいサポート OB もいるのでレクチャーを受けてほしい。

長岡市と江戸の関係も勉強して、長岡の農業体験者にも学び、活動につなげて頑張ってください。

Q 最近ビル屋上の緑地化で、農業の試みもある。一生を賭けるとのことだが、農業は始めたら簡単に辞めるわけにはいかない。責任を持って最後までやってほしい。

第9回助成団体の活動成果発表

・高齢者の相互補助及び生涯学習

〔千代田文化会 3回目〕（第9回活動成果発表会の欠席団体）

このサポート事業の助成を3回受け、おかげで活動が広がった。①お互いの相互補助、②孤独、特に家庭内孤独をなくす、③生き甲斐のための習い事などを、以上3つの目標で活動してきた。3年でサポートは卒業したが、助成は受けずとも、活動はそのまま続けている。規模は少し小さくなったが、高齢者ネットワークは高齢者の集まりとしてみなさんに喜ばれている。

これまででは、高齢者という言葉は聞くが、言葉だけで何の集まりも何の助け合いもなかった。私どもがサポートを受け、この活動を始めたことで高齢者のサークルが生まれ、ネットワークができた。本当に喜ばれ、ご家族からも、私どもが何うと、「よくいらっしやいました。またお願いします」と歓迎されている。

そういう言葉を聞くと、ますます何かしなくてはいけないと思うものの、なに

せ、会員の平均年齢が75歳。思いばかりで重労働はできないので、お互い集まって、傾聴ボランティアとかできることだけをやっている。

これからも、助成はなくても、ずっと続けていくつもりでいる。

Q 前回ご報告いただけなかったのですが、心配していたが、きょう発表が聞けてよかった。おそらく、サポート事業の中でも最高齢のグループだったと思う。

特に、2年目、3年目から街に出ていく活動も一部実現した。ヨーロッパなどでは高齢者が街でお茶を飲んだりしている光景が見られるが、日本では少ない。今後も、ぜひ街に出る活動もして頂きたいと思う。

新規メンバーが少しずつでも増えていくといいが、その点は？

A 少しだが増えている。メンバーでなくてもお仲間に入れてという方

は多く、会費もないし、その人たちもやがてはメンバーになってくれる。助成はなくなったので、これからは相談して少し会費も考えようかと思う。

年に2回の小ピクニックは大好評。春は後楽園の水戸藩の庭の枝垂桜、秋は北の丸公園で紅葉狩り。ご厚意により、時には滝を流して下さる。みなさん、とても楽しみにしている。ピクニックはこれからも続けていきたいと思っている。



第10回千代田まちづくりサポート公開審査会審査結果

部門	回数	団体名	代表者(敬称略)	申請額(万円)	一次評価	二次評価	助成対象	助成額(万円)
一般	3	神保町応援隊	白石 春美	50	★★★★★★★	●●●●●	◎	49.3
一般	2	C-bridge	伊東 孝	50	★★★★★★◆	●●●●●	◎	49.3
一般	2	SOTOBORI CANAL WONDER	榊 俊文	50	★★★★★★◆	●●●●●	◎	47.9
一般	2	NPO 法人地図文化研究会	橋本 進	50	★★◆◆◆◆◆	●●●●●	◎	42.6
一般	2	食育.街行く研究会	堀井 市朗	50	★★★★◆◆◆	●●●●●	◎	46.4
一般	2	神田フェーダー・ニュートラル	子根森 有沙	50	★★★★★★★	●●●●●	◎	46.4
一般	2	helpus! (ヘルパス)	柳澤 優行	50	★★★★★★★	●●●●●	◎	49.3
一般	1	NPO 法人ちきゅう市民クラブ	千代鳥 モーミンウディン	50	◆◆◆◆◆▲	●●	◎	22.9
一般	1	趨友会	西森 義人	50	★◆◆◆◆▲		—	—
一般	1	NPO 法人 WEL'S 新木場	春田 文夫	41.5	★★◆◆◆◆◆	●●	◎	35.4
トライアル	1	日本の農業に一生を賭ける！ 学生委員会 (SOLA)	白鳥 幹久	5	—	—	◎	5

【審査結果】 一次評価：★活動企画内容を支持し、今回のサポート助成が必要と考えられる
 ◆活動企画内容についてもう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい
 ▲社会的に意義ある活動だが、サポート助成の趣旨になじみにくいとする
 二次評価：●今回の助成対象として推薦する

総評

【総評】鈴木会長

本年度はトライアル部門を含めて11団体が応募してくださり、熱のこもったプレゼンテーションを行っていただきました。例年に比べて応募団体は少ないとはいえ、それぞれの団体の活動レベルは非常に高く、審査側としても、今後の活動に対する期待の膨らむ審査会であったように思います。ご応募頂いた方々に深く感謝する次第です。

今年で10年目を迎えるまちづくりサポートですが、近年の傾向としては旧来の「まちづくり」という枠を越えて、さまざまな活動に取り組んでいる団体が応募するようになってきました。特に今年は、農業や福祉といったこれまでにないテーマを取り組みとしたグループが出てきた事も印象的です。これは審査する側にとっても、重要な問題です。「まちづくり」とは何か？「まちづくりサポート」の対象としてふさわしい活動は何か？この問題については、一つ一つのグループの活動提案を見ながら、答えを出しています。個人的な判断基準を挙げさせてもらうとすれば、その活動が地域のコミュニティとどのような関係を持つか、活動の成果が区民にどのような影響を与えるか、また、まちづくりの可能性を広げるか、といった点であると考えています。現在はまだ「まちづくり」との関係が十分に説明できない活動ではあっても、活動を通して、次世代の「まちづくり」の可能性を示す事ができる活動であれば、サポートの対象としてふさわしいのではないかと思います。ある意味では未来のまちづくりに対する投資であると思います。しかし、そのためには、サポートの公開審査会、中間発表会、活動成果発表会などの機会を通して、グループと対話し、可能性を議論することが必要

だと思っています。

また、もう一つの課題は、まちづくりとビジネスの関係です。まちづくりサポートには三年間応募する事ができます。そのため、4年目以降、自立した活動ができるよう、特に3年目のグループには、財政的な見直しについて説明していただくよう求めています。サポート卒業後、継続して活動しているグループもたくさんありますが、やはり活動資金は大きな課題となっているようです。持続的な活動のためには、何らかの収入を得る仕組みを考える必要があり、ビジネス感覚が必要とされます。

また、近年見られるようになってきたのが、まちづくりサポートへの企業あるいは、企業を中心としたグループの応募です。内容としては企業のビジネスに関連する形で、地区のまちづくりへと繋げていこうという提案です。内容としては公共、公益的な視点のあるものであっても、やはり審査する側にとっては、判断が難しいケースが生じます。

ボランティア感覚の強いまちづくり活動にも、ビジネス感覚が求められ、ビジネス感覚の強い、企業の活動においても、コミュニティ活動やまちづくりの分野にみられるボランティア感覚が必要となる時代であるといえるでしょう。今後のまちづくりサポートの課題と言えます。



審査委員 講評

【C-bridge】

昨年度のブリッジウォークの実施など、着実にグループとしての活動実績を積み重ねていると感じました。本年度は皇居内濠にかかる橋を対象として活動をされるとの提案ですが、地域にコミュニティが存在しない場所であるため、昨年とは異なる新たな戦略が必要とされるでしょう。特にイベント参加者の募集にあたっては、一工夫必要かもしれません。

活動のオリジナリティという面から考えると、内濠内の橋も千代田区にとっては貴重な地域資源であり、むしろ、地域にとられないC-bridgeのような団体だからこそできる活動だと

思います。また、活動の成果をインターネット等を活用し、イベント参加者以外にも知らせる事ができれば、より多くの方に千代田の良さを知ってもらえるのではないかと思います。期待しています。



(鈴木会長)

【SOTOBORI CANAL WONDER】

外濠の魅力を再発見し、多くの方に知ってもらおうという活動方針は非常に意義のあるものだと感じています。本年度は、周辺地区も含めたまちづくりの可能性を考えるためにマップを作成するという提案でしたが、地域の商店街や団体と協働することができれば、ユニークなマップが誕生するのではないかと期待しています。外濠については千代田区と新宿区の区境に位置しています。民間団体の取り組みですから、千代田区という

枠にとられず、新宿区側の地区へもアプローチして、区界を飛び越えて取り組んでいただければと思います。また、小学生の参加をということですが、小学校や児童館や周辺地区の町内会などと連携するなど、効果的な参加の呼びかけが必要かと思っています。学生主体のグループの利点を生かして積極的に取り組んでください。

【NPO 法人地図文化研究会】

2年目の応募です。昨年は自転車マップを見せていただき、まちサポ見学会でも現地を訪れたので、継続の審査委員はある程度、活動イメージを共有できた上での審査でした。施設もメンバーの皆さんもとても専門的だったため、また審査委員のほうも、なにかと地図を扱う面々が多かったため、質問も突っ込んだものになりました。「地図文化の普及啓発」と「未来地図の協働作成」という2つの要素が提案の骨子になっています。この2つがどういう関係になるのか、そもそも未来地図とは何か、どういう方向に向かうのか、未知数な点について期待のこもった質問とメッセージが集中しました。まちサポとして注目

したいポイントは、地図をつくることと千代田のまちづくりをどう関係づけるか、とくに後者について地元とどのような準備（関係づくり）をしていくのかになります。いろいろな可能性のある分野ゆえ、潜在力のある団体として、説得力のある成果を期待しています。



(早田副会長)

【helpus !】

日大の学生さん(学部と大学院)の団体で、2年目の応募です。昨年は、まだ発足から間もなく、走りながら考えるという印象でしたが、今年は活動方針もたいへん明確で、とても安定した印象があり、1年間の活動の実績を感じました。先輩後輩の継承、まちとの協働、さらにでんでんむし(東京電機大)、カンダユメラボ(明治大)など他大学との連携もうまく続けているようで、素晴らしいと思い、拝見しました。学生のまちへ示す「できることカタログ」をつくるというアイデアは、審査委員一同から高

い評価を得ました。「カタログ」から多様な協働のまちづくりのアウトカム(波及効果)を期待しています。そうであるがゆえに、「協働の管理」が気になります。学生個々の関心、団体の関心、住民や協働相手の関心は十人十色です。「多様性マネジメント」がキーポイントではないかと思っています。そのノウハウが蓄積したら、素晴らしいまちづくりの世界が開けるだろうと大注目しております。

審査委員 講評

【神保町応援隊】

まちサポ3回目の審査となりましたが、当初よりその活動のコンセプト・ビジョンが明確であったので、着実に活動成果が現れております。神保町を中心としたエリアの連携、街の特色を活かしたイベントの企画参加、住民・社会人・学生等のネットワーク作りと人材育成、街の魅力を伝える媒体や案内活動などは目を見張るものがあります。当然の事ながら各イベントにおいての、エコ活動・ゴミ分別・交通整理係などの裏方サポートは、称賛に値します。また何よりも白石隊長・下田さんを始めとする応援隊の皆様方の楽しそうな笑顔に、底知れぬ活力と本当に神保町が好きだという心意気を感じます。(まちづくりは笑顔づくり)

神保町という歴史と文化とコミュニティのある街で、正に手本となる様なエリアマネジメントを実践しており、本年度

【日本の農業に一生を賭ける！学生委員会】

トライアル部門に農作業姿で登場した日本の農業に一生を賭けるという青年は、熱い口調で農業に賭ける情熱と意気込を語った。それは生産者と消費者との繋がりに視点を置いた食農イベント、廃校を利用して地元の子どもたちと共に野菜を植えて収穫そして調理、日本農業の再生および子どもたちへの食育等……大変有意義な活動である。しかしここで大切なのは、テーマである「江戸風土システム」をどの様に確立するかであり、このシステム抜きでは千代田のまちづくり活動としての成立は少々難しい。江戸時代この町は非常にエコロジカルな暮らしをしており、青物市場であった神田多町を中心とした、地産

に予定されている神保町サミットはその記念すべき第一歩となる事でしょう。しかし少々心配なのはまちサポ終了後の活動原資です。まちづくり活動は時間と手間が掛かります、当面は会員増強(法人込み)や冊子・FM・ホームページ等の媒体広告費なのでしょうが、本年度から今まで以上の創意工夫が必要だと思われます。

今後の皆様方の益々のご活躍を心よりお祈り致しております。



(田熊委員)

地産の流通システムが確立されていた。また消費においても調理後に発生する灰や残材、人糞にいたるまでリユース・リサイクルされており、正に今で言うゴミという概念など存在しない。このシステムの構築には江戸の文化・歴史を学び、千代田の廃校や広場の有効利用さらには屋上緑化などのアイデア等を、どう組み込み、またどの様に活かしていくのが最も重要である。日本の農業のために、将来を担う子どもたちのために、千代田での有意義な活動を期待する。何事もトライあるのみ！空(SOLA)に舞う白鳥(区の鳥)の如き！

【食育。街行く研究会】

せっかく、お蕎麦を食べたいと思って土日休みの店が多く、観光客を受け入れにくい…という発表もありましたが、お蕎麦はシニアのカップルの平日の街歩き、途中下車の旅として、カレーは学生やビジネスマンにと対象を絞れば、かえって店のこだわり、食の蘊蓄を伝えやすいのではと思います。平日営業グループ名にある「食育」への働きかけが弱いように感じました。が、食の地域ブランドが内外に認知されれば、おのずと子どもたちにも食文化が浸透していくということかもしれません。なにしろ、歴史、文化、伝統の一杯詰まった神田の老舗の魅力をぜひぜひ私たちに再発見させていただきたいと思えます。

【WELL'S 新木場】

障害のある人たちにとって千代田区に通ってくるということは、一般の授産施設に通うことに比べ社会参加の一步として格別の意義があると思います。障害者とまちづくりと言うと、とかく段差をなくす、エレベータをつけるといったハード面のバリアフリーに焦点があたりがちですが、今回は働く、地域住民とのコミュニケーションという側面が重視されていて、千代田ならではの新しいモデルが誕生するのでは、と期待が膨らみます。

それにしても毎回ながら、区民として地域の活性化に傾ける情熱に圧倒されます。区内住民による申請が減っている中、区民による街の活性化組織としてせっかくの活動実績が継続、定着していくような体制作り、運営方法の確立を期待しています。



(服部委員)

活動の場は屋上庭園にこだわらず、なるべく一般の人たちがふれあいやすい場所で活動していただければと思います。千代田区内には企業もたくさんあり、障害者雇用推進のため、実際に障害のある方々が働く姿、地域に触れる姿を見ていただく、あるいは共に活動していただく機会にもなります。この活動が、障害のある方々、地域住民・企業の双方に、新しい発見や理解の場になるよう期待しています。

審査委員 講評

【麹友会】

数少ない、麹町地区のエントリーなのでとっても楽しみでした。しかし、発表を聞いているうちに、なぜ？地元の人たちの顔が見えず、古くから住んでいる住民が、はたして望んでいる事か？という、疑問が湧いてきてしまいました。発表をお聞きしても、やはり地元の応援がみえず、場所柄そんなことで人が呼べるエリアかなとまたまた疑問に思ってしまった。コンセプトが他区から麹町に呼ぼう、知ってもらおうと思っていられるようですが、果たして、麹町住人はそう思っているのか？まず、住民の意思を確認、味方に付けて活動を進めて欲しかったです。

残念なことに発表日が2年に一度の日枝神社のお祭りだったので、麹町地区住民は出席しづらかったのが原因としても、エ

ントリー内容に少しでも、地元応援または地元の方の名前などが入っていれば、審査員の理解を得たような気がします。

とっても惜しいエントリー、少し角度を変えて、ぜひ、ぜひ、次回バージョンアップしてから、トライしていただきたいと思えます。



(谷委員)

【神田フェーダー・ニュートラル】

昨年の「ロジヨコライブ in 神田」も述べ32回130組のアーティストと約3,500人の観覧者を動員していることから、「おっちゃんの街・音楽を通じた特色ある街づくり」は着実に成果を上げているように感じました。今年度は新企画の「ロジヨコ探検隊」を加え、この

中では持続可能な地域コミュニティを目指すようですが、どんだん街へ出て、色々な人と交流してください。元気がないおっちゃんも多いので、更にパワーアップした元気がでる活動を期待しています。2年目を迎え、今後は活動の継続性についても視野に入れた活動が求められます。資金面では広告収入などの収入源の開拓や、人材面では学生メンバー入れ替わりに対応した組織づくりなど、それぞれの課題をコツコツと解決してください。



(中嶋委員)

中嶋委員の講評は、神田フェーダー・ニュートラルの活動を高く評価し、今年度の新企画「ロジヨコ探検隊」の追加を歓迎する内容です。

【NPO法人ちきゅう市民クラブ】

今回の提案は、昨年度のトライアル部門の成果を踏まえての企画ですが、一次評価の結果は、黄色（もう少し説明を聞きたい）が6票、赤色（助成になじまないのでは？）が1票でした。

この赤色を入れたのは私でした。ちきゅう市民クラブさんの実績については、区外の活動を含め大変素晴らしいと認識していますが、今回2つの点で気になったことがありました。一つは、この企画を千代田区で行う意義です。昨年から継続と

いうこともありますが、例えば区内にたくさんある大使館と連携した活動など、より千代田区の特性を活かした内容であれば良かったのではないかと思います。もう一つは、この企画は「これからのまちづくりの人材育成」を目指していますが、具体的にどのようなプログラムでその成果を出していくのかが見えなかった点です。子どもたちが異文化に触れることは、それだけでいろいろな効果があることは分かりますが、それをまちづくりの人材育成まで繋げていくことはなかなか難しいことと思います。

他の委員さんは、どのように評価されたかは分かりませんが、結果は、申請額より大分少ない助成額となってしまいました。当初の企画が予定どおり実施できるかちょっと心配ですが、是非頑張って下さい。



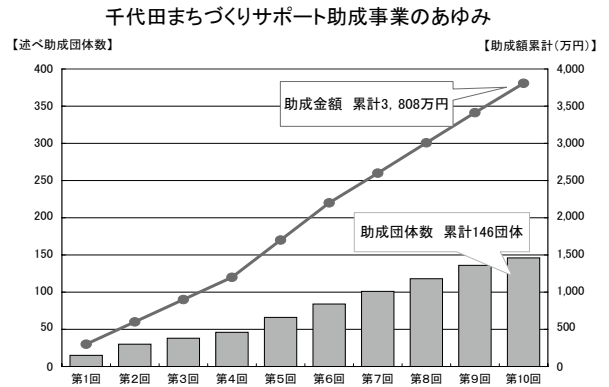
(山崎委員)

事務局よりお知らせ

■これまでの助成額は累計 3,808 万円

市民によるまちづくり活動を応援する「千代田まちづくりサポート」は、千代田のまちを元気にするまちづくり活動に対して助成を行っています。

第1回から第10回までに助成を受けた団体は、延べ146団体、助成金の累計は3,808万円に上っています。この助成金は、当財団の賛助会員の方々からの会費によって賄われています。



千代田まちづくりサポート助成の概要

- 助成対象** 千代田区を対象とした市民レベルのまちづくり活動
- 助成額** 1団体あたりの助成額は、一般部門が5～50万円、トライアル部門は一律5万円です。申請内容を公開の場で審査し、助成額を決定します。
- 応募資格** 3人以上のグループで、千代田のまちづくりに関する活動であれば、在住、在勤、在学、国籍を問わずなたでも応募できます。政治・宗教・営利を目的とする活動は助成対象になりません。
- 年間スケジュール** 助成団体募集(5月)、公開審査会(6月)、中間発表会(11月)、活動成果発表会(3月)

(財) まちみらい千代田 賛助会員一覧 (法人:50社 個人:54名 計104) 2008年10月末現在

※本事業は下記の法人会員と個人会員の支援で運営されています。＜賛助会員募集中＞

【法人会員】	【コンサルタント】	【個人会員】(敬称略)
【金融関係】 興産信用金庫 (株)東京都市銀行 神田支店 (株)東日本銀行 飯田橋支店 みずほ信託銀行(株) 大和証券(株) 本店営業部 【建築・土木関係】 (株)大林組 東京本社 大林道路(株) 関東支店 鹿島建設(株) 東京建築支店 五洋建設(株) 清水建設(株) 大成建設(株) (株)竹中工務店 中央建設(株) (株)ナカノフード建設 前田建設工業(株) 【不動産関係】 エヌティティ都市開発(株) 協永(株) (株)久保工 住友不動産(株)	三井不動産(株) 三菱地所(株) 安田不動産(株) 【緑花・環境関係】 日産緑化(株) 【広告代理業】 (株)フィレール 【電機・通信関係】 ウェブリオ(株) 【建設設計】 (株)アール・アイ・イー (株)アイテック計画 (株)ADプロジェクト (株)関東設計 (株)共立エステート (株)楠山設計 (社)東京都建築士事務所協会 千代田支部 (株)都市環境計画研究所 パシフィックコンサルタンツ(株) (株)ポリテック・エイディディ (株)ラウム計画設計研究所	【その他】 秋葉原商店街振興組合 秋葉原中央通商店街振興組合 (株)イサミヤ 神田古書店連盟 (株)デザインファクトリー 東洋美術印刷(株) フィールファイン(株) 富士ゼロックス(株) プラットフォームサービス(株) (株)メディアリンク ヨシモトポール(株) 青木 孝次 安孫子 政夫 阿部 武志 安藤 岩三郎 池 俊郎 伊澤 優 伊東 敏雄 犬伏 真 今川 守 浦田 泉 岡田 貫伍 角地 登志子 加藤 武夫 北澤 悦子 木村 進一 小林 勝彦 小山 政士 清水 玲子 須藤 昭雄 瀬川 昌輝 立山 光昭 田村 崇彰 塚越 茂 戸田 豊重 中川 典子 二木 憲一 野間 善治 早川 平典 藤本 琢巳 堀部 剛正 松島 弓子 松波 道廣 三浦 博子 三原 久徳 宮 健太郎 宮寺 孝臣 三輪 瑛子 山崎 泰廣 渡邊 和 他 15名